

水産加工廃棄物に含まれる有用物質の利用技術開発

利用化学部

研究の背景・目的

1. 廃棄物の投棄による環境の悪化と、処理の作業やコストによる業者の負担増
2. 有用物質を含みながらも廃棄される水産加工廃棄物
3. 水産加工廃棄物に含まれる有用物質の利用法を開発することにより、廃棄物の付加価値向上と減量化が必要

研究成果

1. ホタテガイ加工残滓に含まれる種々の有用物質の存在量の把握
 - (1) 既知物質、既知効果、すでに利用されているもの
EPA、DHA、タウリン等のヒトの健康に良いとされる成分
 - (2) 既知物質、効果一部不明、未利用なもの
マイコスポリン様アミノ酸・紫外線防護剤や抗酸化物質として利用
 - (3) 物質不明、効果不明、未利用なもの
抽出液中の血小板凝集抑制効果の存在・血栓症の予防物質としての可能性
2. ホタテガイ加工残滓に含まれる紫外線吸収物質マイコスポリン様アミノ酸の効率的な抽出法を開発

波及効果

1. 水産加工廃棄物を再利用する事による減量化
2. 水産加工廃棄物の付加価値向上と新産業の創出
3. 少量多品種の水産廃棄物について、有用物質の検索・利用技術を開発し、省エネ、省コストなシステム化を図り、ゼロエミッションをめざす

